

漁港は魚の保育園

http://www.gyokou.or.jp/

漁港漁場月報

平成23年7月15日 発行
 毎月 1回15日発行
 編集兼 社団法人 全国漁港漁場協会
 発行人 田中潤児
 東京都港区赤坂1-9-13三會堂ビル8階
 電話 東京(5114)9981
 定価 1部 70円
 (会員の購読料は会費の中に含む)

釜山で 日韓漁港漁場技術交流会議

「漁港漁場の整備による水産資源の管理」がテーマ

第14回日韓漁港漁場技術交流会議が6月15日に韓国・釜山市のBEXCO(釜山国際展示場)で特殊法人韓国漁村漁港協会の主催により、漁港漁場の整備による水産資源の管理」をテーマとして開催され、日韓の漁港漁場関係者など73名が参加した。

日本から田中潤児(社)全国漁港漁場協会会長を団長に水産庁、漁港漁場関係団体等から7名が参加。韓国側は、沈好鎮(韓)韓国漁村漁港協会会長、吳炳錫(韓)農林水産食品部水産開発課長をはじめ、66名



交流会議の様子

この交流会議は、平成9年に第1回を東京で開催して以来、毎年日韓両国で相互に開催。漁港漁場のインフラ整備、維持管理及び関連技術等に関する諸問題について発表し、意見交換している。会議のテーマは、その時々



挨拶する沈會長

がテーマとなった。主催者を代表し沈好鎮會長が出席者への謝辞と歓迎の言葉を述べ、「本日開催される日韓漁港漁場技術交流会議は、両国

の問題点を踏まえ、減少傾向にある水産資源の回復を漁場の整備によって進めようとする共通認識に基づき「漁港漁場の整備による水産資源の管理」をテーマとした。韓国側を代表する田中潤児會長が「日韓漁港漁場協会は、1988年の漁港大会から交流が始まり、以来密接な関係、友情で結ばれている。このような関係の中からこの技術交流会が設けられ、今年でも14回目になる。爾来、論文発表や現地調査を通じて有益かつ重要な情報交換が行われ、また両協

の協会が韓国と日本を行き交いながら14年間に亘って水産基盤産業の総合的な発展と情報の交流、そして関係者たちの友情を深めてきた意味の深い会議である。

韓国側を代表する田中潤児會長が「日韓漁港漁場協会は、1988年の漁港大会から交流が始まり、以来密接な関係、友情で結ばれている。このような関係の中からこの技術交流会が設けられ、今年でも14回目になる。爾来、論文発表や現地調査を通じて有益かつ重要な情報交換が行われ、また両協

の悪化による漁業生産の減少、漁業者の減少、高齢化など深刻な問題を抱え、漁村地域の活力低下が懸念されている。このような状況を打破し、漁村を維持し更に発展させるために様々な方策を講ずる必要があるが、特に基盤である漁港・漁場・漁村の整備は重要である。このためにも両国間で技術交流を深めることは極めて有意義であり、これからも末永く続けていかねばならない。

このように意味で水産業の基盤と言え漁村漁港漁場に関する民間団体間の長年の交流は両国水産業の発展のためにも非常に意味のあることと考

力強化して行かなければならない」と長官の祝辞を代読した。参加者の紹介の後、安熙道(韓)海洋研究院名誉研究員を議長に、両国それぞれ2名の代表者による各20分間の主題発表と日本からの事例発表を行い、質疑応答に移った。発表は、次のとおり。

【主題発表】
 「漁港の再整備による水産資源の管理」
 韓国漁村漁港協会 黄哲根 部長
 「海洋生態基盤システム構築の基本方向に関する検討」
 釜慶大学海洋工学科 教授 柳青魯
 「漁場整備を用いた水産資源の管理」
 瀬戸内海岡山県白石島の海洋牧場における事例」
 (韓国側)
 田中潤児(社)全国漁港漁場協会会長、坪田幸雄(水産庁漁港漁場整備部整備課漁港漁場専門官)、影山智将(財)漁港漁場技術研究所理事

日本水産工学会緊急ワークショップ開催



復旧・復興に向けて討論

時より、東京海洋大学の楽水会館において約二百名の参加を得て開催された。今回のワークショップは、東日本大震災により被災した浅海域の漁場や漁港を復旧・復興する際の技術提案を目的として、今

の具体的な方法の提案、総合討論を通じて会員からの積極的な情報提供により、具体的な対策技術の構築に資することを目的として開催された。ワークショップは、次の3項目で構成されており、それぞれの項目に関連する内容が多数発表された。

発表は担当者より、パワーポイントを用いた分かりやすい発表が行われ、それぞれの発表に対する質問については、総合討論の時間を利用して一括して行われた。調査報告に関連して、ROV調査の際の位置情報取得方法、地震による基準点のズレに対する修正方法、調査と瓦礫撤去の連携、既設の魚礁の状況等などの質問があり、担当者より回答が行われた。技術提案については、

瓦礫の処分の際の法律(海洋汚濁防止法)の取り扱い、藻場について自然回復した場合と人工基盤を投入した場合の回復の違い等について質問があり、それぞれの担当者より回答が行われた。学会としては被害が広範囲に亘ることから、被災状況のある程度の類型化を念頭に水深別などの要素によって漁場や漁港の復旧・復興への対応策を纏めて行きたいとの方向性が示され、緊急ワークショップは終了した。

発表項目及び発表者(敬称略)
 ① 調査報告
 ② 東日本大震災による水産業への影響と今後の

③ 漁港施設及び関連施設の被災状況の報告
 水産工学研究所 浅川典敬
 ④ 山田湾における水中瓦礫の実態と簡便な調査方法
 水産工学研究所 桑原久実
 ⑤ 技術提案
 ① 簡易ROVを用いた漁業者による浅海部の被害状況調査(法)の提案
 日本技術士会水産部会・フィスコ 関根幹

② 瓦礫の処理
 全日本漁港建設協会 長野章
 ③ 海中の瓦礫撤去の方法について
 深田サルベージ建設(株) 服部洋明
 ④ 養殖漁場復旧の提案
 「係留の観点から」
 東京製綱繊維ロープ(株) 市川正和
 ⑤ 分別した瓦礫の利用と留意点
 青木あすな建設(株) 江島泰

⑥ 瓦礫を利用した袋型根固工等について
 不動テトラ(株) 保坂三美
 ⑦ 総合討論(座長)
 日本水産工学会副会長・福井県立大学 大竹臣哉
 ⑧ 気仙沼における調査
 アークジオサポート 小澤守
 ⑨ 瓦礫の処理
 全日本漁港建設協会 長野章

浦項市の良浦港等視察
 技術交流会議終了後、参加者は、バスで朝鮮半島東海岸に位置する浦項市に移動し、良浦漁港の漁村漁港複合公園の現況について説明を受けた。良浦漁港は、漁村漁港複合公園が2008年に完成し、海洋文化、海洋公園、海洋レジャーなど

「東日本大震災による東北沿岸の漁場や漁港の被災と復旧」と題して、日本水産工学会主催による緊急ワークショップが平成23年6月17日午後1

実施されつつある水産庁による被災実態調査からの最新情報の報告、養殖施設や漁場・漁港等の建設に詳しい民間企業の専門家による復旧・復興の

ための具体的な方法の提案、総合討論を通じて会員からの積極的な情報提供により、具体的な対策技術の構築に資することを目的として開催された。

発表は担当者より、パワーポイントを用いた分かりやすい発表が行われ、それぞれの発表に対する質問については、総合討論の時間を利用して一括して行われた。

瓦礫の処分の際の法律(海洋汚濁防止法)の取り扱い、藻場について自然回復した場合と人工基盤を投入した場合の回復の違い等について質問があり、それぞれの担当者より回答が行われた。

このように意味で水産業の基盤と言え漁村漁港漁場に関する民間団体間の長年の交流は両国水産業の発展のためにも非常に意味のあることと考

の悪化による漁業生産の減少、漁業者の減少、高齢化など深刻な問題を抱え、漁村地域の活力低下が懸念されている。このような状況を打破し、漁村を維持し更に発展させるために様々な方策を講ずる必要があるが、特に基盤である漁港・漁場・漁村の整備は重要である。このためにも両国間で技術交流を深めることは極めて有意義であり、これからも末永く続けていかねばならない。

このように意味で水産業の基盤と言え漁村漁港漁場に関する民間団体間の長年の交流は両国水産業の発展のためにも非常に意味のあることと考

力強化して行かなければならない」と長官の祝辞を代読した。参加者の紹介の後、安熙道(韓)海洋研究院名誉研究員を議長に、両国それぞれ2名の代表者による各20分間の主題発表と日本からの事例発表を行い、質疑応答に移った。発表は、次のとおり。

【主題発表】
 「漁港の再整備による水産資源の管理」
 韓国漁村漁港協会 黄哲根 部長
 「海洋生態基盤システム構築の基本方向に関する検討」
 釜慶大学海洋工学科 教授 柳青魯
 「漁場整備を用いた水産資源の管理」
 瀬戸内海岡山県白石島の海洋牧場における事例」
 (韓国側)
 田中潤児(社)全国漁港漁場協会会長、坪田幸雄(水産庁漁港漁場整備部整備課漁港漁場専門官)、影山智将(財)漁港漁場技術研究所理事

漁港漁場漁村整備促進議員連盟 東日本大震災の対応協議

漁港漁場漁村整備促進議員連盟

漁港漁場漁村整備促進議員連盟(会長・衛藤征士郎衆議院議員)は、6月21日午前8時から自民党本部で臨時総会を開き、東日本大震災による水産業への影響と今後の対応について、水産庁の説明を聴取するとともに検討を行った。

本日は、水産庁から東日本大震災による水産被害の状況などについて、大震災関係の第1次補正予算の概要について説明を頂き、その後先生方の意見をいただき、



挨拶する衛藤会長

体の関係者が傍聴する中、北村誠吾事務局長の司会で議事が進められた。冒頭、衛藤会長が「3月11日の東日本大震災発生以来100日以上たつたわけだが、連日テレビ、新聞の報道等に接するたびに心が痛む。この大震災に被災された方々、特に亡くなられた方々に対しましてお見舞い、お悔やみを申し上げる。この地域は我が国の水産にとつてのメッカ、かけがえのない地域であり、一刻も早い復旧、復興そして水産新生が図られなければならないと思つている。

は、今後の2次補正及びこれからの想定される東海、東南海地震などに対する我が国の防災あるいは水産のあり方についても意見をいただきたいと考えている。水産業の復興に当たり、漁港の集約や復旧・復興する漁港の選択を行うべきという意見があるが、地元の関係者の意見というものを十分に聞き、各漁港の果たす役割に十分に配慮して、漁業者が将来に夢を持って漁港・漁村の復旧・復興を図るべきと思つている」と挨拶した。

次に、東日本大震災による水産業への影響と今後の対応についての基本的な説明が欲しい」と船が無いから出漁が出来ないという現状で、漁船に対しての国庫補助率が3分の1は少ない、「小さな漁港が不効率か? 養殖等々の共同利用施設等があり、大いに役立つ」として、長谷川水産経営課長が「共同利用施設等について、大角亨水産経営課長の「漁業者・漁協等への無利子・無担保・無保証人融資の推進」について説明した。

説明の後意見交換を行い、出席議員から「漁港の復旧についての基本的な説明が欲しい」と船が無いから出漁が出来ないという現状で、漁船に対しての国庫補助率が3分の1は少ない、「小さな漁港が不効率か? 養殖等々の共同利用施設等があり、大いに役立つ」として、長谷川水産経営課長が「漁業者・漁協等への無利子・無担保・無保証人融資の推進」について説明した。

報告、収支決算及び平成23年度事業計画、収支予算等の各議案が原案通り承認された。また、役員退任に伴う補欠選任が行われ、副会長に片岡憲彦常滑市長(会長代行)と榊原康生西尾市長が、監事に鈴木惣和日岡賀島漁協組合長が選任された。

また、藤井克彦農林水産部理事の顧問就任が了承された。また、藤井克彦農林水産部理事の顧問就任が了承された。

高橋英理唐櫃漁協代表理事組合長を議長に議事に入り、平成22年度事業報告及び収支決算、平成23年度事業計画及び収支予算を原案どおり承認した。

高橋英理唐櫃漁協代表理事組合長を議長に議事に入り、平成22年度事業報告及び収支決算、平成23年度事業計画及び収支予算を原案どおり承認した。

高橋英理唐櫃漁協代表理事組合長を議長に議事に入り、平成22年度事業報告及び収支決算、平成23年度事業計画及び収支予算を原案どおり承認した。

愛知県漁港漁場協会(会長・金原久雄蒲郡市長)は、7月8日午前11時から名古屋市の「アイリス愛知」で第10回通常総会を開催した。金原会長の挨拶に続き、田中潤児(全国漁港漁場協会会長)が祝辞を述べた。

和歌山県漁港漁場協会(会長・望月良男有田市市長)は、7月8日、和歌山市の「アパローム」の国において、第64回通常総会を開催した。望月良男会長の挨拶の後、来賓の田中潤児(全国漁港漁場協会会長)が代理・港漁場協会会長(代理・鹿田正一理事)及び津村賢介和歌山県土整備部長(港湾空港局長)がそれぞれ挨拶した。

山口県漁港漁場協会(会長・野村興秋市長)は、7月7日午後1時から山口市の「防長苑」において平成23年度通常総会を開催した。

山口県漁港漁場協会(会長・野村興秋市長)は、7月7日午後1時から山口市の「防長苑」において平成23年度通常総会を開催した。

山口県漁港漁場協会(会長・野村興秋市長)は、7月7日午後1時から山口市の「防長苑」において平成23年度通常総会を開催した。

山口県漁港漁場協会(会長・野村興秋市長)は、7月7日午後1時から山口市の「防長苑」において平成23年度通常総会を開催した。

山口県漁港漁場協会(会長・野村興秋市長)は、7月7日午後1時から山口市の「防長苑」において平成23年度通常総会を開催した。

山口県漁港漁場協会(会長・野村興秋市長)は、7月7日午後1時から山口市の「防長苑」において平成23年度通常総会を開催した。



海に活気 水橋フィッシュアリーナ開港

富山市水橋(みずはし)地区に建設が進められていた水橋フィッシュアリーナが完成し、富山市(森雅志市長・富山県漁港漁場協会理事)は7月4日現地で開港式を挙行した。

この水橋フィッシュアリーナは、平成6年に「ふれあい漁港漁村整備計画」の認定を受け、河川と分離した漁港と、漁港西側の不法係留艇などを収容するフィッシュアリーナとを併設することによって漁業と地域の振興、海洋性レクリエーションの促進なども視野に入れて整備が進められ、平成13年度から22年度にかけて総事業費25億円で完成した。

たもので、水上80隻、陸上70隻のプレジャーボートが収容でき、管理棟、駐車場・多目的広場や、釣りや散歩ができる親水防波堤などを備えている。

望月会長を議長として議事に入り、平成22年度事業報告及び収支決算、平成23年度事業計画及び収支予算を事務局提案どおり承認した。

また、任期満了による役員改選が行われ、望月会長が議長に選任された。

また、任期満了による役員改選が行われ、望月会長が議長に選任された。

また、任期満了による役員改選が行われ、望月会長が議長に選任された。

また、任期満了による役員改選が行われ、望月会長が議長に選任された。

また、任期満了による役員改選が行われ、望月会長が議長に選任された。

染水があふれる可能性についても問題視する。地下ダムのノウハウは農水省にある」と、日に200トンは地下に漏れている。海に流れている可能性がたかいたい、「水産と漁港が果たす多面的機能に注目すべき。復興会議では産業政策一辺倒で議論が進められていくが、地域政策としての観点から計画が進められるべき」と、漁協は水産物の水揚げがあつてはじめて経営が成り立つており、現在は収入がなくなつている。漁協自体の今後の役割は大きい。漁協の経営維持・支援が必要」といった懸念や意見が出された。

最後に衛藤会長が「311を契機に水産庁は「守り」から「攻め」に変わらなければならない。B/Cの物差しだけでなく、生業としての漁業、地域政策としての漁業を考えるべき。原発問題に対して、水産庁の存在感が希薄。海への影響をもっと重視し、水産庁はものを言うべき。財源問題の議論が足りない。問題の議論が足りない。問題の議論が足りない。」

外山三博宮崎県議会議長、田中潤児(全国漁港漁場協会会長)が来賓祝辞を呈し、田口雄二県議会議長をはじめ、漁協関係者などの来賓が紹介された。

日高会長を議長に議事に入り、平成22年度事業報告及び収支決算、平成23年度事業計画及び収支予算等の議案が原案通り承認された。

日高会長を議長に議事に入り、平成22年度事業報告及び収支決算、平成23年度事業計画及び収支予算等の議案が原案通り承認された。

各県総会

愛知県漁港漁場協会

愛知県漁港漁場協会(会長・金原久雄蒲郡市長)は、7月8日午前11時から名古屋市の「アイリス愛知」で第10回通常総会を開催した。金原会長の挨拶に続き、田中潤児(全国漁港漁場協会会長)が祝辞を述べた。

和歌山県漁港漁場協会(会長・望月良男有田市市長)は、7月8日、和歌山市の「アパローム」の国において、第64回通常総会を開催した。望月良男会長の挨拶の後、来賓の田中潤児(全国漁港漁場協会会長)が代理・港漁場協会会長(代理・鹿田正一理事)及び津村賢介和歌山県土整備部長(港湾空港局長)がそれぞれ挨拶した。

山口県漁港漁場協会(会長・野村興秋市長)は、7月7日午後1時から山口市の「防長苑」において平成23年度通常総会を開催した。

山口県漁港漁場協会(会長・野村興秋市長)は、7月7日午後1時から山口市の「防長苑」において平成23年度通常総会を開催した。

山口県漁港漁場協会(会長・野村興秋市長)は、7月7日午後1時から山口市の「防長苑」において平成23年度通常総会を開催した。

山口県漁港漁場協会(会長・野村興秋市長)は、7月7日午後1時から山口市の「防長苑」において平成23年度通常総会を開催した。

山口県漁港漁場協会(会長・野村興秋市長)は、7月7日午後1時から山口市の「防長苑」において平成23年度通常総会を開催した。

香川県漁港漁場協会

香川県漁港漁場協会(会長・岡田好平土庄町長)は、6月28日午後1時30分から高松市の「ホテルニューフロンティア」において、第63回通常総会を開催した。

岡田会長の挨拶に続き、田中潤児(全国漁港漁場協会会長)・大畑善彦(香川県農政水産部水産課副課長)が祝辞を述べた。

岡田会長の挨拶に続き、田中潤児(全国漁港漁場協会会長)・大畑善彦(香川県農政水産部水産課副課長)が祝辞を述べた。

岡田会長の挨拶に続き、田中潤児(全国漁港漁場協会会長)・大畑善彦(香川県農政水産部水産課副課長)が祝辞を述べた。

岡田会長の挨拶に続き、田中潤児(全国漁港漁場協会会長)・大畑善彦(香川県農政水産部水産課副課長)が祝辞を述べた。

岡田会長の挨拶に続き、田中潤児(全国漁港漁場協会会長)・大畑善彦(香川県農政水産部水産課副課長)が祝辞を述べた。

岡田会長の挨拶に続き、田中潤児(全国漁港漁場協会会長)・大畑善彦(香川県農政水産部水産課副課長)が祝辞を述べた。

宮崎県漁港漁場協会

宮崎県漁港漁場協会(会長・日高昭彦川南町長)は、6月30日午後1時30分から宮崎市の「宮崎観光ホテル」で第62回通常総会を開催した。

日高会長の挨拶に続き、河野俊嗣宮崎県知事、副課長が祝辞を述べた。

日高会長の挨拶に続き、河野俊嗣宮崎県知事、副課長が祝辞を述べた。

日高会長の挨拶に続き、河野俊嗣宮崎県知事、副課長が祝辞を述べた。

日高会長の挨拶に続き、河野俊嗣宮崎県知事、副課長が祝辞を述べた。

日高会長の挨拶に続き、河野俊嗣宮崎県知事、副課長が祝辞を述べた。

日高会長の挨拶に続き、河野俊嗣宮崎県知事、副課長が祝辞を述べた。

水産庁人事異動

(7月1日付) 防災漁村課長補佐・海岸班班長(整備課長補佐) 設計班班長(森健一) 整備課長補佐・設計班班長(三上信雄) 整備課付(東南アジア漁業開発センター)派遣) 佐藤昭人

山田会長は、「当研究会も20年の歴史を超え、今後の在り方を考えねばならない」と組織運営について言及したが、「私共の使命を終えたとは思っていない」とも言明。さまざまな選挙を排除せず組織の在り方を模索する方針を示した。

山田会長は、「当研究会も20年の歴史を超え、今後の在り方を考えねばならない」と組織運営について言及したが、「私共の使命を終えたとは思っていない」とも言明。さまざまな選挙を排除せず組織の在り方を模索する方針を示した。

山田会長は、「当研究会も20年の歴史を超え、今後の在り方を考えねばならない」と組織運営について言及したが、「私共の使命を終えたとは思っていない」とも言明。さまざまな選挙を排除せず組織の在り方を模索する方針を示した。

山田会長は、「当研究会も20年の歴史を超え、今後の在り方を考えねばならない」と組織運営について言及したが、「私共の使命を終えたとは思っていない」とも言明。さまざまな選挙を排除せず組織の在り方を模索する方針を示した。

山田会長は、「当研究会も20年の歴史を超え、今後の在り方を考えねばならない」と組織運営について言及したが、「私共の使命を終えたとは思っていない」とも言明。さまざまな選挙を排除せず組織の在り方を模索する方針を示した。

山田会長は、「当研究会も20年の歴史を超え、今後の在り方を考えねばならない」と組織運営について言及したが、「私共の使命を終えたとは思っていない」とも言明。さまざまな選挙を排除せず組織の在り方を模索する方針を示した。

漁港往来

自6月1日 至6月30日

6月3日(金) 全国漁港漁場協会田中会 出張 長は愛媛県へ出張

6月6日(月) 高知県漁港漁場協会事務局長山本貞夫氏

6月9日(木) 北海道水産林務部水産局 漁港漁村課長三浦孝利氏、同課主任吉米地庄吾

6月10日(金) 富山県漁港漁場協会事務局長山本利夫氏

6月14日(火) 全国漁港漁場協会田中会 出張 長は佐治総務部長は韓国へ まくととなるど氏

6月20日(月) 愛媛県漁港漁場協会事務局長山本貞夫氏

6月22日(水) 島根県漁港漁場協会(前) 事務局長永田敦夫氏、同協

6月30日(木) 全国漁港漁場協会田中会 出張 長は香川県へ出張

6月30日(木) 青森県東青地方漁港漁場整備事務所長外城勉氏、三

八地方漁港漁場整備事務所 長葛西幸一氏、下北地方漁

港漁場整備事務所長須郷豊 氏、西北地方漁港漁場整備

事務所長佐々木壽晃氏

全国漁港漁場協会田中会 出張 長は宮崎県へ出張

6月28日(火) 高知県漁業協同組合宇佐

グ・ユニット所長) あん・ 統括支所統括支所長上野浩